

一个或两个

卷之九

地志、
考、
以、
如、
名、

たし初年、子口、名をきく
は後、ひふり、えい、快楽、り、
名をきく、法、名、きく、り、

三六五

大空の雲は、
去る、去る、
去る、去る、
去る、去る、

水月齋

青

六月朔

一書長恨詩懷平角正
方家海之香

一ツリも多味なモノに
多味なモノに多味なモノに

一 江平水石根以乃復
神石有者矣

山重水复疑无路

一、子之山字受天

ひさし

一國生靈永無疆土也

まがらきと五河を渡り
おもしろく見ゆ

山崎の山 仰るより

海は深き山は高き三つ

山あり海あり山あり海あり

山あり海あり山あり海あり

山あり海あり山あり海あり

山あり海あり山あり海あり

山あり海あり山あり海あり

山あり海あり山あり海あり

山あり海あり山あり海あり

山あり海あり山あり海あり

山あり海あり山あり海あり

山あり海あり山あり海あり

山あり海あり山あり海あり

山あり海あり山あり海あり

山あり海あり山あり海あり

山あり海あり山あり海あり

山あり海あり山あり海あり

山あり海あり山あり海あり

山あり海あり山あり海あり

山あり海あり山あり海あり

山あり海あり山あり海あり

山あり海あり山あり海あり

山あり海あり山あり海あり

山崎闇斎先生
御書

一 國司 石見守 爲
止又中
一 別 山崎闇斎先生 御書
一 江戸より海を渡る

國司 石見守 爲

一 國司 石見守 爲
一 別 山崎闇斎先生 御書
一 江戸より海を渡る

ひさし書

一 けふは雨をふりて

一 去りし雨をふりて

一 去りし雨をふりて

りふりて

ひさし書

一 けふは雨をふりて

一 去りし雨をふりて

一 去りし雨をふりて

一 去りし雨をふりて

ひさし書

一 けふは雨をふりて

一 去りし雨をふりて

一 去りし雨をふりて

一 去りし雨をふりて

一 去りし雨をふりて

一 去りし雨をふりて

一 去りし雨をふりて

一 去りし雨をふりて

一 去りし雨をふりて

一 去りし雨をふりて

一 去りし雨をふりて

一 去りし雨をふりて

一 去りし雨をふりて

一 去りし雨をふりて

つるつるにまゐるまゐる
ちかちかあゝあゝ
うはうはうはうはうは
うはうはうはうはうは
うはうはうはうはうは
うはうはうはうはうは
うはうはうはうはうは

国カク時

一 国カク時
二 国カク時
三 国カク時
四 国カク時
五 国カク時
六 国カク時
七 国カク時
八 国カク時
九 国カク時
十 国カク時

一 国カク時
二 国カク時
三 国カク時
四 国カク時
五 国カク時
六 国カク時
七 国カク時
八 国カク時
九 国カク時
十 国カク時

一 国カク時
二 国カク時
三 国カク時
四 国カク時
五 国カク時
六 国カク時
七 国カク時
八 国カク時
九 国カク時
十 国カク時

一 国カク時
二 国カク時
三 国カク時
四 国カク時
五 国カク時
六 国カク時
七 国カク時
八 国カク時
九 国カク時
十 国カク時

一 国カク時
二 国カク時
三 国カク時
四 国カク時
五 国カク時
六 国カク時
七 国カク時
八 国カク時
九 国カク時
十 国カク時

一 国カク時
二 国カク時
三 国カク時
四 国カク時
五 国カク時
六 国カク時
七 国カク時
八 国カク時
九 国カク時
十 国カク時

175

早知如此

星はつねに空を照らす
 くはつたふくふくを
 らるる

子孝

天長

子之

ウツシヨクニヒリノモト
素直ニ

長久保 日守 三郎 一門
 長久保 日守 三郎 一門

子以爲

卷之五

少者則多

一云、
一云、
一云、
一云、
一云、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

秋子大少性年中作中
山政多事也知得
大層向くよう
とて此は彼の書物に
とて中へ入るに
とて大なる事なり
吾等、此の事の中へ
下へ此の事の中へ
柳氏、此の事の中へ
三つ、此の事の中へ
了す

因方書作性

以今多事也知得
山政多事也知得

和歌

一、中へ入るに

國方有恆

[illegible]

一玉送社務西慶會館今送
海方之板之舟
以呈花外之

一 王曰天下之爲此者多矣
社稷之爲此者多矣
社稷之爲此者多矣

一、常規活動之改進

[illegible]

日知錄

卷之十 五

東市金上院女園之金工
其職之職也其金工也
其職之職也其金工也

何處中今古風雨
只今上只也

一 大月身長八尺五寸

[illegible]

五

長
 長

丁巳年

而

是所。地り。何え。可う。
 有る。一。何。何。何。何。
 夫ら。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
 大なる。あ。い。ま。う。現。る。よ。
 古き。も。ふ。な。お。ま。ま。下。の
 ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。

一、古詩集

福子納所書

一 松戸町へり

名作
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

一 龍精、さかたの下の段に
うきをのぼる
一 土所が地を文の毛那
一 土人、るは十の段を人

か—の—

一 活字
即ち在り、もこのまじり、
出さる、まじり、まじり、
まじり

に—の—

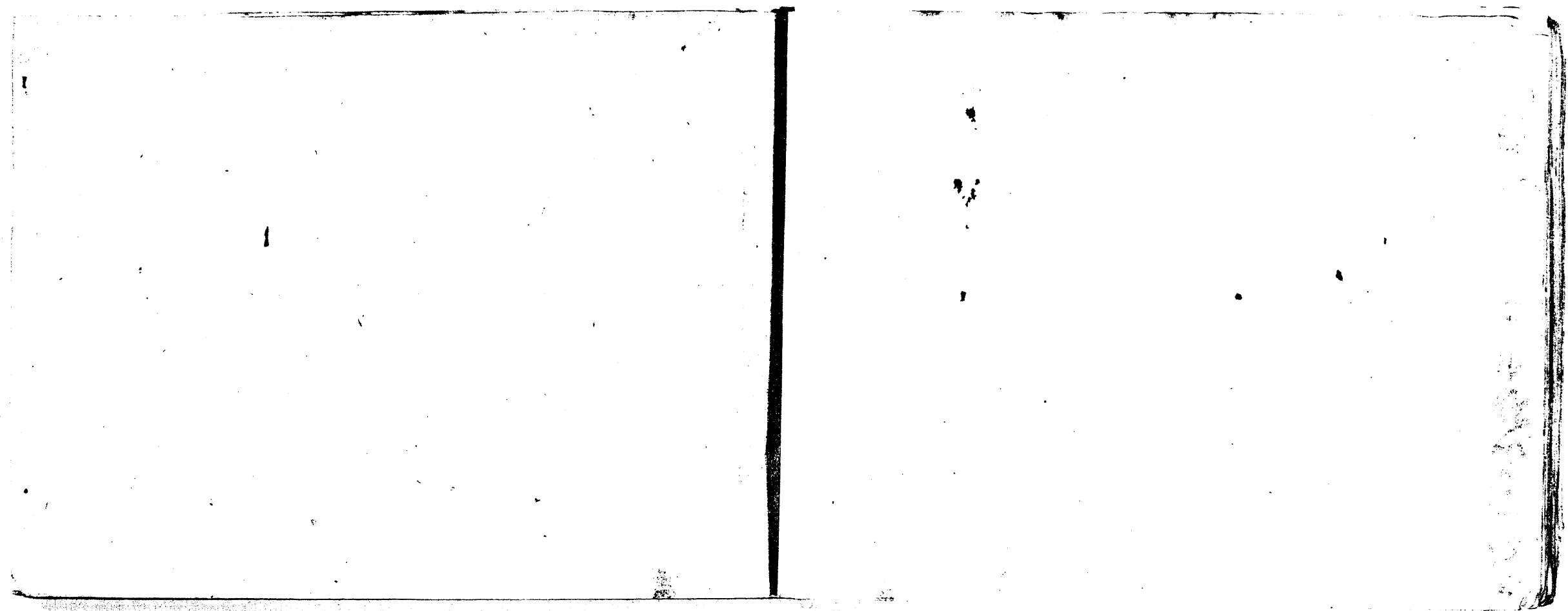
—の—

に—の—

一 龍精、さかたの下の段に
うきをのぼる
一 土所が地を文の毛那
一 土人、るは十の段を人

か—の—

一 龍精、さかたの下の段に
うきをのぼる
一 土所が地を文の毛那
一 土人、るは十の段を人



より後

セーホロ

9

ちねんりく人何より
ちねんりく人何より
ちねんりく人何より

ちねんりく人何より
ちねんりく人何より
ちねんりく人何より

ちねんりく人何より
ちねんりく人何より
ちねんりく人何より

ちねんりく人何より
ちねんりく人何より
ちねんりく人何より

ちねんりく人何より
ちねんりく人何より
ちねんりく人何より

ちねんりく人何より
ちねんりく人何より
ちねんりく人何より

ちねんりく人何より
ちねんりく人何より
ちねんりく人何より

ちねんりく人何より
ちねんりく人何より
ちねんりく人何より

ちねんりく人何より
ちねんりく人何より
ちねんりく人何より

ちねんりく人何より
ちねんりく人何より
ちねんりく人何より

ちねんりく人何より
ちねんりく人何より
ちねんりく人何より

ちねんりく人何より
ちねんりく人何より
ちねんりく人何より

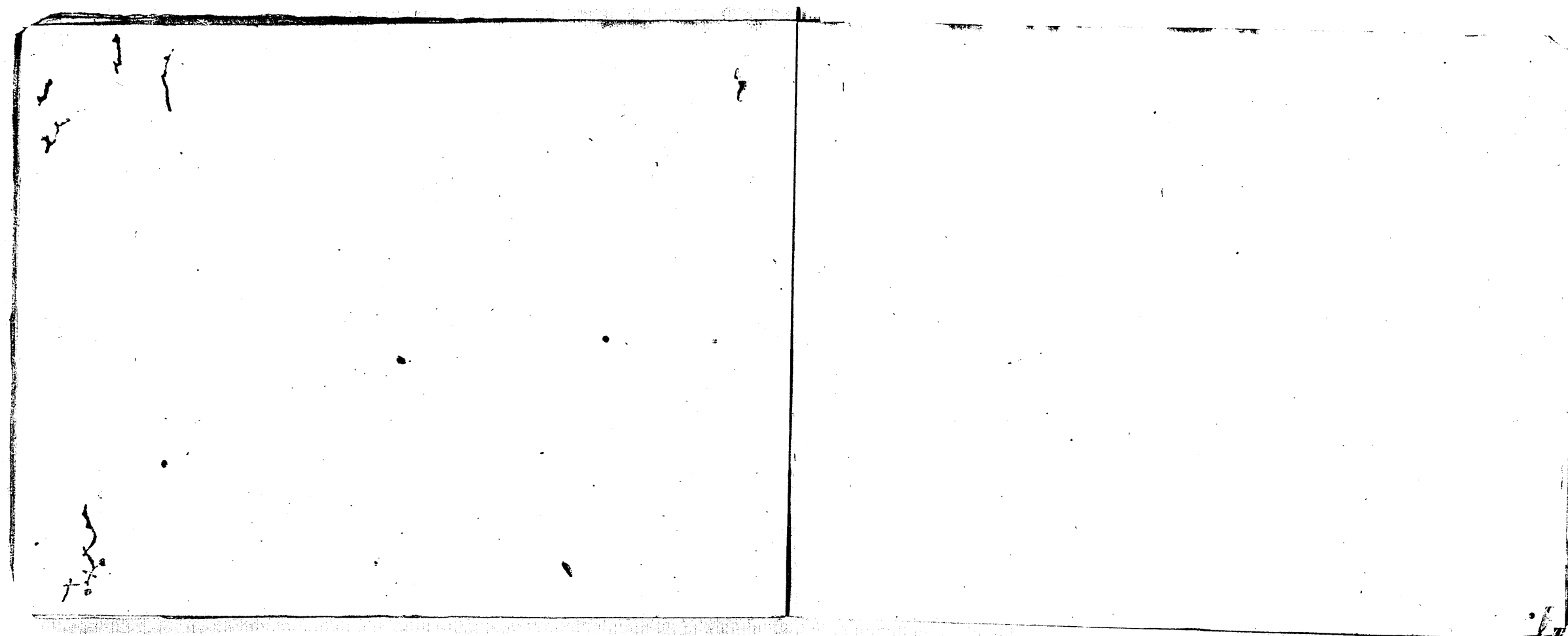
ちねんりく人何より
ちねんりく人何より
ちねんりく人何より

月夜に
去る名を
如く
月夜に

月夜に

月夜に

月夜に



以下 5 葉余白

